

## ジャガイモ豊作

株式会社榎戸材木店  
会長 榎戸正人

2月終わりから3月中旬にかけて植え付けたジャガイモの種イモは、春から梅雨、初夏と順調に育ち、7月中旬から早採りが出来るようになります。8月の真夏になると暑さで葉が枯れてしまい、成長も止まります。

それから本格収穫時期。9月には遅採りとなりますが、それ以上収穫せずにいると、また土の中で芽を出してしまい、収穫しても芽を出して育てるのに栄養を取られてしまうため、食べられる部分が少なく美味しくありません。

この原稿を書いているのは7月。まさに早採りが始まる時期です。今年は時間が出来た分、畑の手入れに力を入れ、十分に耕し有機肥料もタップリあげたので、豊かに茂る葉を見ながら豊作を期待していました。「期待」というのはトマトやキュウリなどと異なり土の中の話なので、掘らないと豊作か不作かわかりません。

過去には葉ばかりよく育って、掘ったらイモが少なく小さいということがありました。これは肥料の成分の影響です。ジャガイモやトマト、ナスなどのナス科の野菜は草木灰が多めに必要です。今年は薪ストーブの灰を有機肥料とともに多めに与えたので、豊作を期待していました。

さて、早採りに挑戦。試し掘りなので、わずか45センチか50センチ四方くらいだけ掘ることにしました。小さなシャベルでジャガイモを傷つけないように土をどかすように少しずつ掘っていきます。するとわずか3～4センチでジャガイモの頭が見えてきます。あとは手で土をかき分けながら掘り出しますが、さらにその下を掘り進むとまたジャガイモの頭が見えてきます。深さ25センチくらいまで収穫できます。

写真のジャガイモはわずか45センチか50センチ四方から採れたもので、畑全体を掘ればこの15倍から20倍は採れるでしょう。期待した通り、過去最高の豊作です。ジャガイモは収穫後も軽く陰干しした後、段ボールの箱に入れて暗く、涼しいところに保管しておけば2カ月くらいは持ちますので、ほぼ今年いっぱいはいわずに済むかもしれません。多少なりとも、家計の助けにはなりそうです。

